

廃アルミ発電でライブ

きょう戸出七夕に出演

高岡南高生

廃アルミから生成する「アルミ水素」で電気を作る地元企業発の技術を発信しようと、高岡南高校の3年生4人は7日、開催中の高岡市戸出地区の戸出七夕まつりで「エコライブ」を繰り広げる。当日は水素から発生させた電気を会場に持ち込んで演奏し、発電の仕組みも紹介する。生徒たちは「環境問題に興味を持つきっかけになってほしい」と張り切っている。

関敬美さん、高瀬愛裕美さん、宮腰侑来さん、中村悠新さんが、環境ベンチャーのアルハイテック（高岡市）などの協力を得ながら準備を進めている。

4人は今年2月、高校生がSDGs（持続可能な開発目標）達成のための課題解決策を提案する全国大会で優秀賞を受けた。提案した内容は水素から発生させ

【関連記事31面】

た電気でコミュニケーションバスを走らせる、環境に優しいまちづくりだった。大会に向けた準備の中で、廃アルミから水素を作る同社の技術を知った。



メンバー4人のうち2人が軽音楽部に所属。アルミごみから環境に優しい電力を生み出せることをさらに

アピールするのに、得意の演奏を生かすことを思いつき、戸出七夕まつりをその場に選んだ。

発電の材料を調達しようと、同校や戸出東部、戸出西部の両小学校に動画やポスターでアルミ缶回収への協力を呼びかけ、5〜6月に約1700個を集めた。

7日は事前に蓄えた電気でも演奏を披露するほか、可搬型水素製造装置で発電の仕組みも見せる。高瀬さんは「戸出の高校生、企業、小学校が協力してエネルギーを生み出す。身近なもの掛け合わせで新しい可能性が開けることを知ってもらえれば」と話している。

演奏は7日午後4時ごろから市商工会館前広場で披露する。（山崎響子）



④小学校からアルミ缶を集めたメンバー
⑤当日の演奏にも参加する関さん（左）と高瀬さん



そろいの法被を着てあんどんを引く児童



あんどん行列威勢よく

戸出七夕まつり 児童300人引き回し

高岡 高岡市戸出地区で開催中の「第58回戸出七夕まつり」は3日目の7日、児童クラブによる「あんどんパレード」が4年ぶりにあり、地元の子どもたち約300人を中心に手作りのあんどん5基を元気づけ引き回した。

「よいやき」と威勢のいい声を響かせ、七夕飾りに彩られた通りを進んだ。先導していた戸出西部小6年の今井沙恵花さんは「重いけど、楽しいです」と笑顔を見せた。

同日の第58回戸出七夕まつりで、高岡南高校の軽音楽部が、廃アルミから生成する「アルミ水素」で作った電氣を使い演奏を繰り広げた。写真。アルミから水素を作る環



境ベンチャーのアルハイテック（高岡市）の技術を知ってもらおうと、同校3年生の4人が企画。地元の小学校と協力し、発電の材料に充てるアルミ缶を事前に1700個回収した。

この日は缶を破碎したアルミが持ち込まれ、生徒たちは可搬型水素製造装置に材料を投入し、来場者に発電の仕組みを紹介した。軽

音楽部から6グループが出演し、力強い演奏で大勢の観客を楽しませた。